



学習を支える力
～実行機能って？～

前は「ワーキングメモリ」の4つの側面について説明しました。今回は学習を支えている力、「**実行機能**」についてお話していきます。実は、前回まで説明していた「ワーキングメモリ」も、この「**実行機能**」のうちの**一つ**です。

●**脳の実行機能は「更新」「抑制」「シフト」の3つ**

実行機能とは、人間が課題を遂行する時に新しい情報を覚えたり、目の前の状況に合わせて思考や行動を切り替えていくための機能です。実行機能には更新、抑制、シフトの3つがあります。



●**ワーキングメモリと実行機能の関係**

ワーキングメモリとは情報を一時的に覚えておき、目的に合わせて取り出して考えるものです。今回新たに出てきた実行機能の「**更新**」と「ワーキングメモリ」は同じ働きをしています。

学習場面における実行機能の働き

更新

=ワーキングメモリ
情報を一時的に覚えておき、
目的に合わせて取り出して考える

「**抑制**」と「**シフト**」は授業に**参加する**ための機能

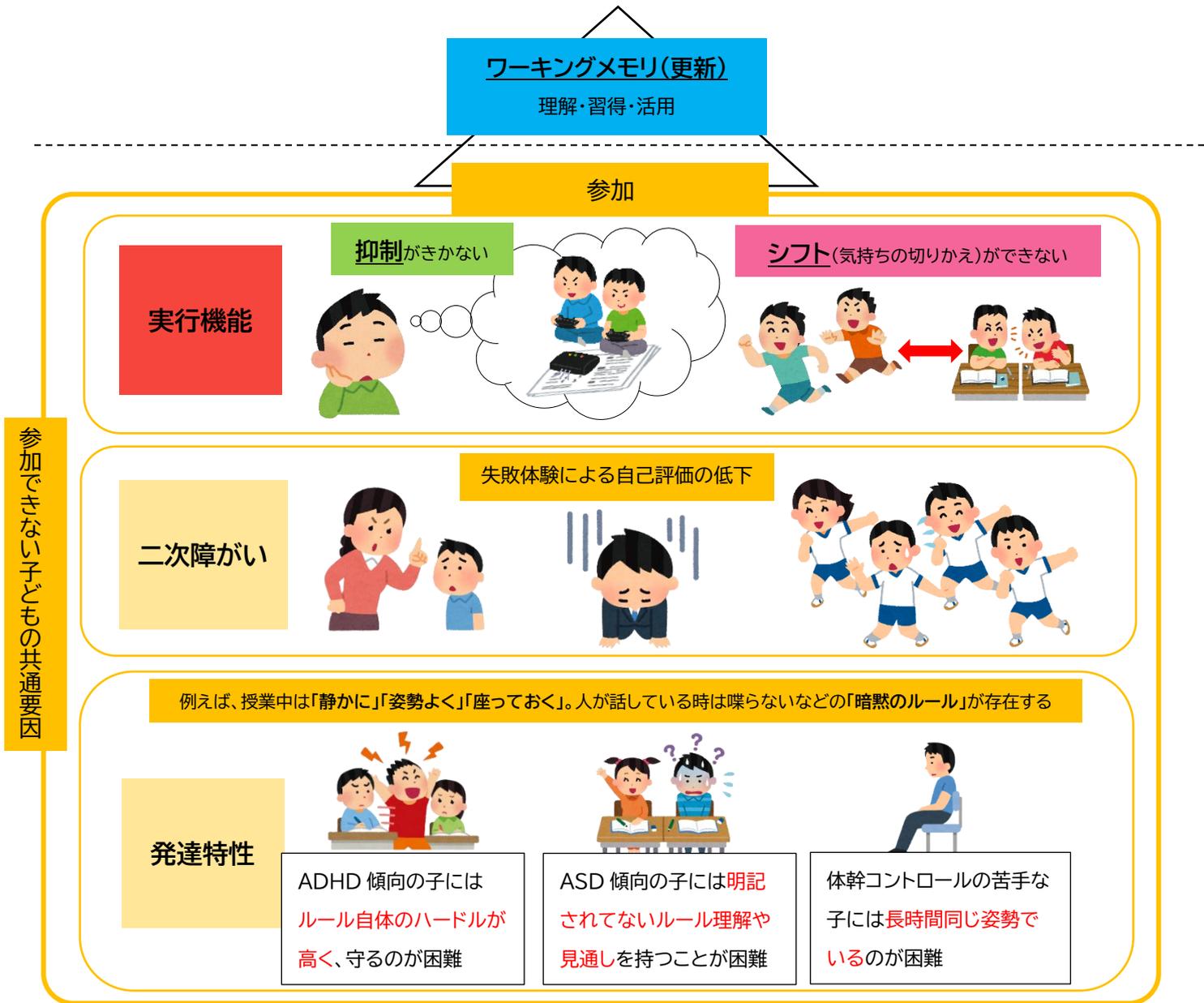
抑制
授業中は他のことが気にならないようにする

シフト
授業と休み時間との気持ちを切り替える

●授業に参加するのが難しい子の共通要因とは？

以下は、授業での『学び』の階層モデル(小貫、2013)や実行機能の理論をもとに、
授業へ参加するのが難しい子の特徴についてまとめた図になります。

子どもたちが学ぶためには授業への「理解・習得・活用」だけでなく**授業への「参加」**が重要になります。



学習に困り感のある子たちには、学習自体ができないというのではなく、
その発達特性により「参加」できないことで、学習につまずいている場合が多くみられます。

学習に困り感を示す子に対する支援は、

- 「理解・習得・活用」を行う力=ワーキングメモリが弱い場合と
- 「参加」を妨げる発達特性がある場合

によって、分けて考えていく必要があります。

<参考>

湯澤正通, 湯澤美紀, ワーキングメモリを生かす効果的な学習支援. 初版 2017